

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日:10月12日(金)

会場:田幸コミュニティセンター

参加者数:39人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>田幸地区においては577世帯、人口1,413人であり、ふれあいと交流、そして安全安心なまちづくりを微力ながら続けている。昨年この場において、3歳未満児保育については、「地元から活動を始めていただきたい」という市側の話もあり、我々町内会は、色々なところで協議を重ね、今日まで進めてきた。全常会の18歳以上のみなさんに署名をもらい、要望書を作成した。900を超える署名を集め、地区全体の73.4%の皆さんから協力を得た。力強く市長へ要望書を提出したい。</p>	<p>市長としては、当然ながら重みを持って受け止めさせていただく。三次市としては、それぞれの世代で地域の子育て環境のみならず、教育を含めた充実を図っていくために、今年度「子どもの未来応援宣言」を策定した。また、三次市のこれまでの現状をみると、この4月から神杉の保育所で3歳未満児保育を開始し、その前には、中心市街地にある十日市保育所で開始した。現在では、愛光・東光を含め、川西など様々な保育所で開始しており、河内と田幸地域が残っている状況である。もともと園児が少ない中でどう経営していくかという保育所があるのも事実である。田幸保育所には、現在3～5歳が13人在籍している。4月1日時点で、田幸出身の子どもたちは全員で24人いる。その24人の内13人が田幸保育所に入所している。0～2歳の子どもたちは14人いる。この38人の子どもたちに、いかに田幸の保育所に残ってもらえるか。そういったことも大きな一つの課題である。作ったのは良いが、数年後には廃所するということには、決してなってはならない。一緒になって考えていきたい。斎場の件では、ご迷惑をおかけした。本当にありがたく思っている。そういう面は頭から離してはいけないと思っている。感謝を申し上げたい。</p>	
<p>要望書については、最初は個人的な要望であったが、昨年、市長ほか市の職員から「何かアクションを起こさないと言うだけではだめだ。」という助言をいただき、会長や役員と話し、署名活動をする事となった。署名については、73.4%という私の予想をはるかに超えるたくさんの方に署名をしていただいた。以前、田幸は斎場の件についても色々なことがあり、どうなるのかなと思っていた。そんな時に、この署名がきっかけで、田幸がみんな仲良くなって一つになれるという思いを強く感じた。「いつまでも住みたい、いつかは帰ってきたいまちづくり」のためには、今は子どもたちが20数人と少ないかもしれないが、これから増やすためには、保育所が他の地域と同じ条件でなければならない。お母さんたちが働きながら子どもを預け、安心して仕事ができる環境がなければ、この地域には若者は定住しないと思う。今回、たくさんの署名をいただき、本当に皆さんが思ってくれていると感じた。そして、保育所を残し、田幸を活性化していきたいという思いを、市長が受け取って下さった。大変重たい署名だと思う。人数が少ないということではなく、これから田幸を発展させていくために重要なことである。子どもの未来応援宣言については、委員として携わっているが、一字一句、神経質になるくらい委員の皆さんと話し合いながら作っていった。この子どもの未来応援宣言も子どもがあつてのことであり、田幸全体で応援していこうと思っているので、強く要望したい。</p>		
<p>現在、7歳・5歳・3歳の子どもの子育て中である。田幸保育所に3歳未満児保育がないことで、私自身も子どもを和田幸保育所と田幸保育所の2か所に送っていた。今現在、田幸保育所に通われている保護者の方と話した際にも、2か所に送って大変であるという方や、兄弟3人とも田幸保育所に入所できるなら入れたいが、1人は3歳未満児で入れないという方がおられた。そういった声を色々聞き、やはり田幸保育所の3歳未満児保育は、早めにか検討していただきたいと強く思った。現在、3～5歳が24人いる内の13人が田幸保育所に通っているということであるが、他の公立の保育所はだいたい18時半までだが、田幸保育所は18時までである。田幸地域で働いている保護者の方は少ないと思うが、18時までだと迎えの時間に間に合わないため、職場の近くに預けるといった方がたくさんおられると聞いた。3歳未満児保育に加え、保育時間を18時半までという条件も一緒にしてもらえると、別の保育所に通っている子どもも田幸保育所に帰ってきてくれたり、これから子育てをされる世帯の人も田幸を選ぶ人が増えるのではないかと思う。この先、今いる子どもたちが将来大人になり、結婚して子どもを産んで、田幸で子育てしたいなと思っても、3歳未満児保育が無いことで、田幸に帰るのは難しいとなってしまう。今だけのことでなく、将来的に三次に帰りたくない、田幸に帰りたくないなと思ってもらうためにも必要なことである。田幸に帰って来る子が減り、過疎化していつか、荒れ放題の地域になってしまうのではないかという怖さも感じているので、是非早めに対処していただきたい。</p>	<p>当然ながら保育時間は、他の保育所が6時半であれば、6時にしなければならぬ特別な理由がない限り、6時半で揃えていくよう調整していくべきである。また、3歳未満児保育についても、他の保育所も開始している中、否定する理由はないと思う。73%の署名も、重く受け止めさせていただきたい。ただ、将来、田幸の保育所を閉鎖しなければならないような状況ではいけない。若い人を中心とした、この保育所を自分たちで守っていこうという思い、そして、若い人を支えていこうという地域の思いを聞かせてもらいたい。田幸では、38人おられる子どもたちが、3歳未満児保育が無いために、バラバラになっているという面もあると思う。最終的な判断については、皆さんの思いを直接聞かせていただく機会があればありがたい。検討をお願いしたい。</p>	

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日:10月12日(金)

会場:田幸コミュニティセンター

参加者数:39人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>障害者の相談に関して、三次市は、三次市福祉保健センターに相談の機能をついにまとめられたということで、すごく画期的なことであると思う。しかし、まだまだ障害者の相談にきちんと応えておられる状況ではないと感じる。中心となって相談支援をまとめる基幹の部署をつくる必要があるのではないかと。</p>	<p>障害者への総合的な支援体制については、三次市でもしっかりと構築していく。今一番心配されるのは、親など家族が亡くなった後の障害者への支援をどうするのかという部分だと捉えている。そのために、一つの施設にするのか、市内の色々な機能を統合したネットワークとして整備するのか、まだ結論は出していないが、今の目標としては、平成32年度までに整備していきたいと考えている。その中には、当然24時間の相談支援体制等も設置していきたいと考えている。</p>	
<p>優輝福祉会のコーギーガーデンでは、田幸地域において、元気はつらつ教室や認知症カフェ、虹色サロンをやっている。田幸コミュニティセンターを借りて実施しているが、公共交通機関が少ないと感じる。備北交通のバスが走っているが、学校が開いている期間は1日に4本、午前2本、午後2本で、田幸に関しては3本である。土曜日は半分で、田幸に関しては土・日ともに走っていない。こういった所をどのようにサポートするのが課題である。私たちのような福祉サービスの事業者が頑張らなくてはならないのかと日々やっちはいるが、予算や運営の面でも、儲からない事業に人手を出すことになり、現場のほうの意見と食い違う所もある。三次市独自で公共交通機関を増やすのは難しいと思うが、この課題を解決するための施策が必要ではないかと。</p>	<p>・意見交換させていただきながら取り組めることがあれば、一緒にやっていきたいと考えている。</p> <p>・自分たちの地域の公共交通について、住民自治組織単位で協議会や交通を検討する部会等を設置していただいている地域もある。地元の方のご意見をいただきながら一緒に考えて検討していくべきであると思う。今年の5月に、塩町中学校前のバスの待合所の整備について、田幸町内会連合会も含め、待合所を整備してほしいというご意見をいただいた。老朽化していることもあり、9月の議会で予算の可決をいただき、今年度中には整備する計画である。ご要望いただいたものが全てできるというわけではないが、実現できるものもあるので、これからは皆さんからご意見をいただければと思う。</p>	
<p>食育がとても重要だと思っている。障害を持った方が働くカフェレストランを営業しているが、ここでも地産地消を売りにさせていただいている。田幸のみならず、甲奴の産直市から買わせていただいたり、田幸や吉舎のお米を使わせていただいております。地産地消を大事にしている。学校給食の中でも、やはり地産地消というものを強く推していきたい。食育を家庭だけで行うのはかなり難しい。貧困の問題や、市町では特に親の仕事の関係などで孤食になってきているところがあると思う。ある程度、平等性を担保しながら、地産地消を実践できる場として、学校給食はとても大事な場ではないかと。田幸は、調理場を使って地産地消を積極的にされていると思う。川西も田幸の調理場から学校給食をいただいている。何とかこれらの関係性を維持するような施策を実施していただきたい。学校給食は食育の場では無いというような話を聞いたりもするが、逆だと思ふ。学校給食こそが食育を率先して行っていたかなくては、家庭においてそれを実践することはより困難になってくるのではないかと。</p>	<p>学校給食は食育の場と捉えており、小・中学校の教職員についても、同様に捉えていると思う。今後もしっかりと各学校に伝えていきたい。食育としては、例えば、4月に入学した子どもたちの配膳を高学年が手伝っている。どういう分量で配ればよいか、どういう順番でどこに置くかを教えながらやっている。栄養士や学級担任も、正しい箸の持ち方から教えている。また、おかずだけを食べるのではなく、ご飯もおかずも、そして出しているものをきれいに順番に食べていくことや、食べ方も含めて勉強し、家庭に帰って実践できるように。家庭科などでもそうだが、給食献立を通してそれぞれの食材の持っている栄養素を載せて各家庭へ届けている。子どもたちに人気のメニューの作り方も載せている学校もある。調理場もあるので、これからはしっかりと食育を進めていきたい。地産地消については、田幸小学校においても、地元の食材ということで、ぶどうの作り方を教わりながら、一緒に体験をさせてもらったり、地元の田んぼで実際にお米を作り、それを一緒に食べさせてもらうなど、地元の方の協力をいただきながら、食育は始まっている。これからは給食調理場では、地元の方が、「食材を提供するよ。」とおっしゃってくださるものもしっかりと取り入れながら、学校給食を進めていきたいと考えている。</p>	

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日:10月12日(金)

会場:田幸コミュニティセンター

参加者数:39人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>現在、不登校と呼ばれる子どもたちがたくさんいると思う。2016年に教育機会確保法が設立され、これに基づいて子どもたちに色々な多様な学びの場を提供することなどを国が行っている。実際に、「学校に行きたくない」と言っている子どもたちの行き場がない状況である。学校と話をし色々に対応していただいているが、学校に行くのが嫌だとか、学校の教育方針がそぐわないなどの理由があるのかもしれない。三次市は適応指導教育を推奨されるが、そこになかなかそぐわない子どもたくさんいると思う。子どもたちの選択肢をもっと増やしてほしい。今までは学校教育が全てだったが、今はそういった世の中ではなくなくなってきていると思う。三次市では、フリースクール等の整備をするなどの流れが進んでいないと感じる。また、学校に行かず家にこもっている子どもたちに対しての支援体制があまり無く、放って置かれているように思う。学校と親が話をしたり、子どもに親が話をしても、そこから先に進まない。三次市はどのような考えや動きをされているのか伺いたい。</p>	<p>学校に行きたくない、不登校というのは悪いことなのかという論議も含めて、国も進めているところである。行かないということも一つの選択肢という見方や考え方も、今まさに国からも提言があり、その方向性について検討していく動きが始まったばかりである。その中で2016年の教育機会確保法では、現在国で検討したものが示されている。各都道府県へも通知が出ており、現在、広島県でもどのようにやっていくか検討を進めているところである。適応指導教室については、全国どこでも同じ教育を行うことができる基となっている、文部科学省の学習指導要領に基づいた形で実践をしていこうと考え、この適応指導教室をつくっている。適応指導教室では、頑張っていこうとする子どもたちを受け入れ、例えば、学校の課題や家庭科の実習を一緒に行ったり、また部活動の一環のような生け花をやってみたり、図書館と一緒に本を選ぶなど、子どもに応じた多様な形の活動を行っている。フリースクールの扱いについては、まだ県も検討中である。決定すれば各市町へも通知されてくる。また、登校ができていない児童・生徒については、学校としても、一人ひとりの児童・生徒に対して、当然ながら連携を取らせていただきながら、毎日の様子を聞き、把握もしているので、お気づきの点があれば、教育委員会や学校にご意見等をお伝えいただければと思う。一緒に考えていきたい。なお、身近な相談窓口として、三次市子ども応援センターがあり、小・中学生自身や保護者を対象に、例えば、いじめや不登校、体罰など悩みについて相談していただけるよう、専門の職員も配置しているので、ご利用いただければと思う。</p>	
<p>大きなイベントの時には、田幸小学校の体育館をいつも利用させていただいている。体育館のトイレについて、障害者用は洋式であるが、その他は和式である。敬老会のように、多人数の方が来られた時にとても困る。ご高齢の方には、和式のトイレは難しく、利用をためらわれるということもある。また、小学校の体育館は、災害時に避難所として運営をしなければならない。改築の検討をお願いしたい。</p>	<p>田幸小学校のトイレについては、各学校のトイレの洋式化の取組の中で、現在、児童が普段使っている校舎の整備を進めている。それぞれの学校の状況等もあるが、計画的に考え、検討していきたい。</p>	
<p>学校と地域の連携について、田幸小学校においても、学校の努力と地域の努力の中で進められているが、それが組織的・制度的なものかという点、必ずしもそうではないと思う。現在は、コミュニティスクールと呼ばれる場が全国的には広がっている。隣の島根県や山口県では実施している。公民館もその中に含まれているわけであるが、広島県はまだほとんど実施されていない。それぞれの努力に任せるのもいいかもしれないが、それでは、できるところとできないところが出てくると思う。学校と地域の連携を図っていくためには、今の国の制度としてできたものを活用し、広島県もすべきではないかと思う。</p>	<p>子どもの未来応援宣言にもあるが、18歳までをしっかりと支援していくためには、基礎を作っている家庭の教育力が最も大事であると捉えている。そのためにも、家庭の教育環境の改善として、学校とともに支援できることがないかと、今三次市では検討を進めている。コミュニティスクールとは、地域の方で組織を作っていただき、この地域ではこういう教育が必要であるから、是非それに基づいた学校経営をしてほしいというかたちである。現在、広島県内でコミュニティスクールを行っている所は少ないが、例えば、田幸地域・塩町中学校区もそうであるが、地域の方の協力をいただきながら、学校や地域の行事を一緒になって取り組んでいる。ここへ勤務している校長も、地域の皆さんの気持ちや応援をいただきながら、地域と同じ方向を向いて子育てを進めていこうとしている。コミュニティスクールというかたちはとっていないが、そういう方向性と思いでいる。もし、例えば、田幸小学校区ではこういう教育をと望んでいるが、なかなか上手く伝わらないなどあれば、一緒に考えていきたい。子育てについても広くご意見をいただければと思う。コミュニティスクールの組織の立ち上げには、いくつか条件があるので、またご紹介をさせていただきたいと思う。</p>	

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日:10月12日(金)

会 場:田幸コミュニティセンター

参加者数:39人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>学校へ行きたくない子どもについて、世間的には「学校へ行かないのはおかしい」という考え方を持たれている方が多数だと思う。そういった中で、学校へ行っていない子どもの親は不安を感じている。子どもが世の中から外れているのではないか、世間からどう見られているのか、など大きな不安を抱え、家にこもったり、孤立してしまいがちである。そこで、学校へ行けてない、行かない子どもを持つ親同士で、話しができる場があれば、心の拠り所になると思う。なかなか親同士で声をかけ、集まるというのは難しいので、三次市として、そういう子どもたちを認めているという状況を作る意味も含めて、三次市で場を設けていただくことはできないか。</p>	<p>学校へ行けない状況になってしまうのには、子ども一人ひとり、それぞれ理由もあると思うし、保護者の不安も当然であると思う。保護者の方にも、それぞれ個別の事情があり、考えもあると思う。他の状況も踏まえさせていただきながら、同じような思いをお持ちの方がいるのであれば、教育委員会も一緒に考えていきたい。学校としては、児童・生徒が日々どうしているのかというのが、保護者の方と同様に一番気になっているので、これからはしっかりと連携を取らせていただき、状況を伝えていただきたいと思う。</p>	